

# SAIKO データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）自己点検評価

2024年5月

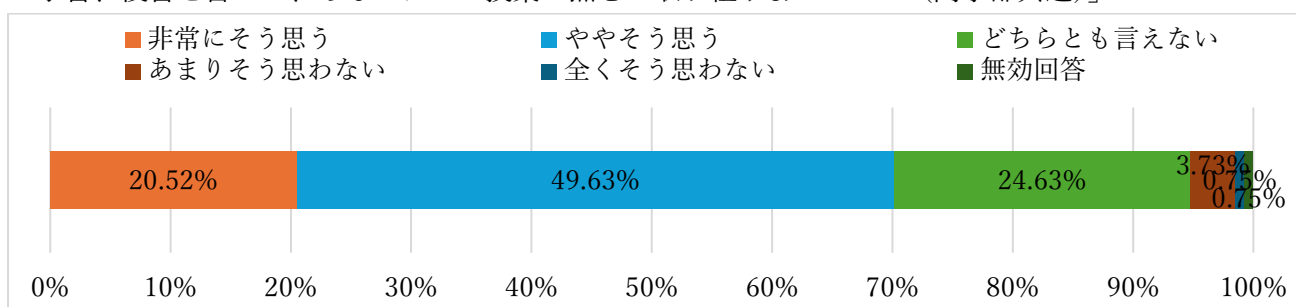
埼玉工業大学 教務委員会 数理・データサイエンス・AI教育推進専門委員会

## 1. アンケート結果

### 1.1 選択回答部分

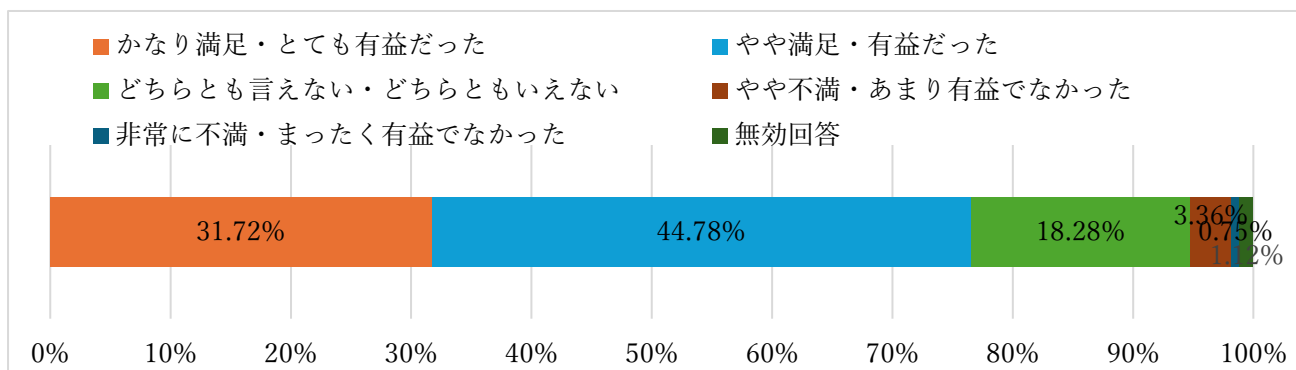
本プログラムに含まれる授業（「ICTリテラシー(1)」 「ICTリテラシー(2)」 「ICTリテラシー(3)」 「人工知能入門(1)」 「人工知能入門(2)」）に対する、2023年度工学部授業評価アンケート・人間社会学部授業アンケートの一部について、回答の合計値を示す。

「予習、復習を含めて、あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか？（両学部共通）」

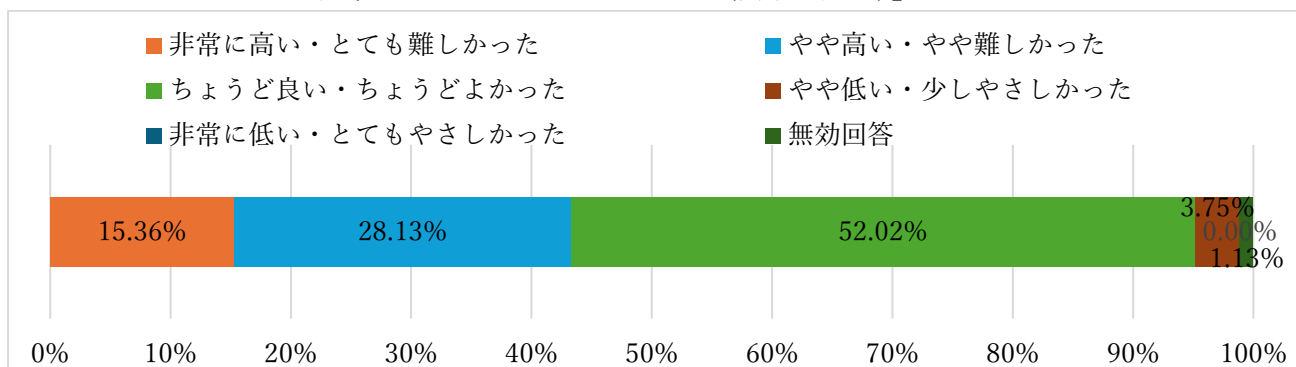


「この授業の満足度はどのくらいですか？（工学部）」

「この授業を受けて、有益でしたか。（人間社会学部）」

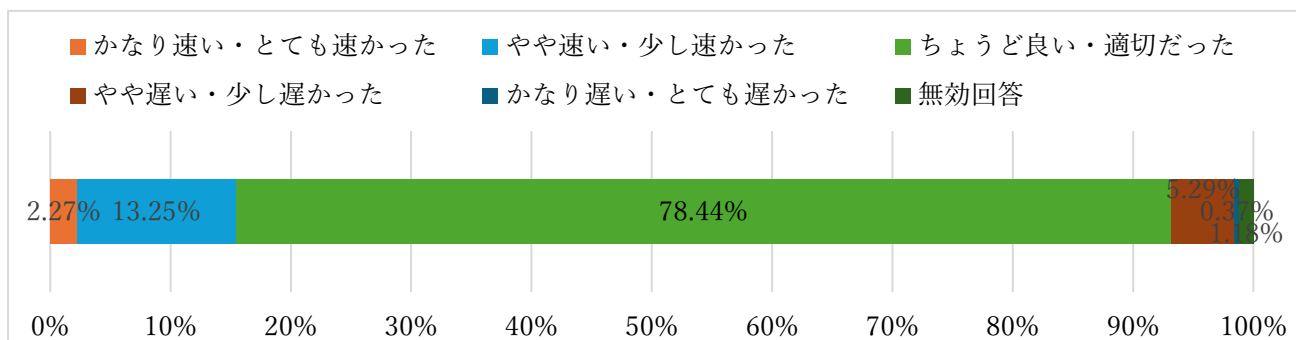


「あなたにとって、この授業のレベルはどうでしたか？（両学部共通）」



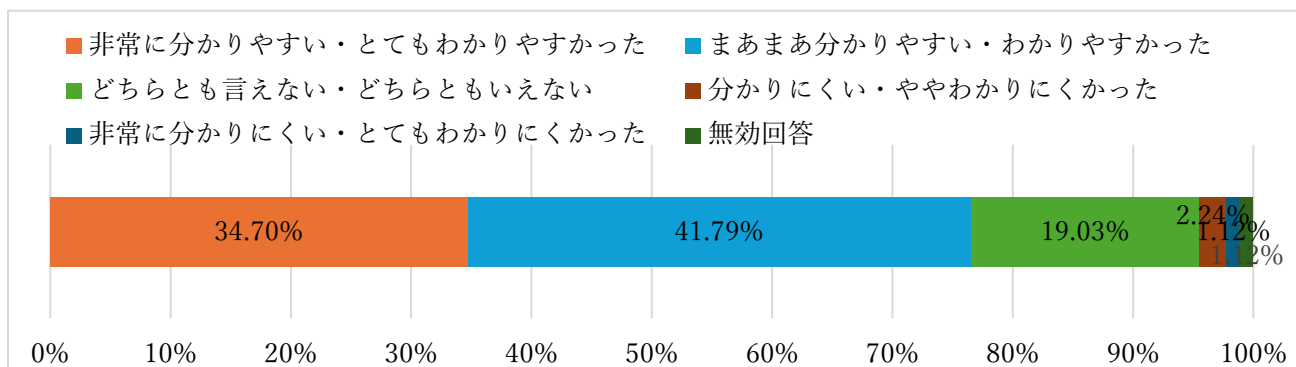
「授業の進行速度はどうでしたか？（工学部）」

「授業の進行速度は適切でしたか？（人間社会学部）」



「教員の説明は分かりやすかったですか？（工学部）」

「教員の説明は明確でわかりやすかったですか？（人間社会学部）」



## 1.2 自由記述部分

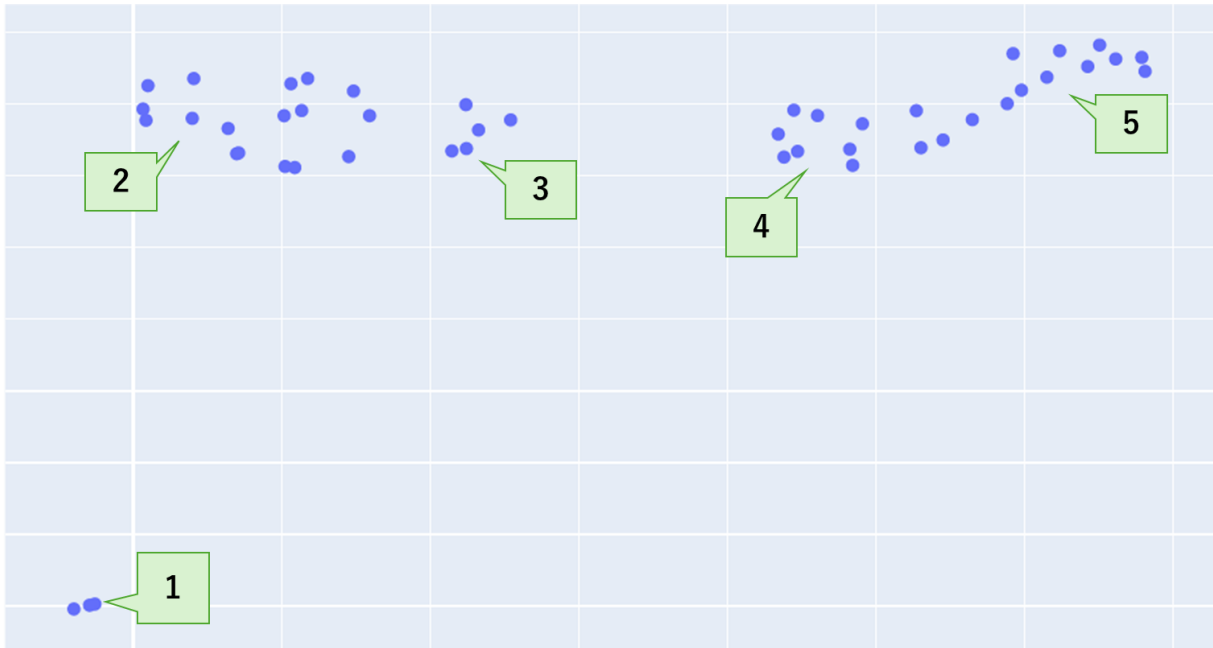
「選択解答部分」と同様の授業アンケートのうち、自由記述えた回答について、回答内容の概要を示す。

図は、各記述を2次元に配置したものである。それぞれ、各回答を文の埋め込みを求めるモデル<sup>1</sup>により埋め込み表現に変換後、2次元に次元削減<sup>2</sup>することにより作成した。

<sup>1</sup> <https://huggingface.co/pkshatech/GLuCoSE-base-ja>

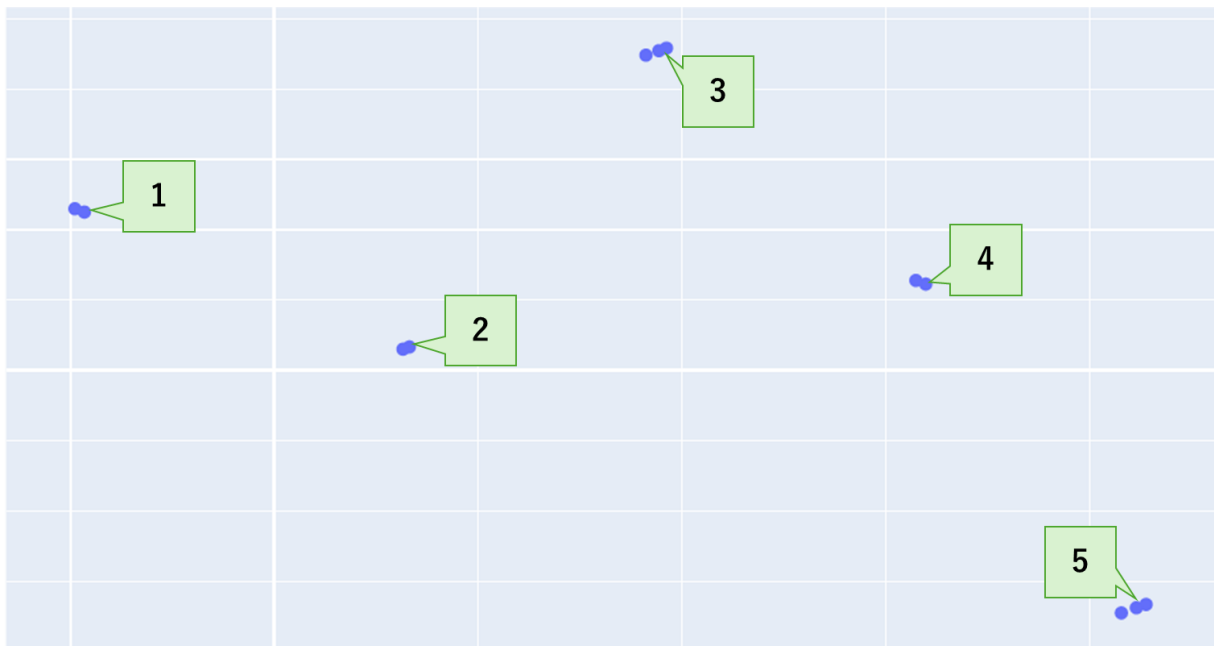
<sup>2</sup> <https://umap-learn.readthedocs.io/en/latest/>

「この授業に関して良かった点」



1. 授業進行について：集中していない学生へ注意をしてくれた
2. 授業の組み立てについて：毎回の課題で理解を深められた、理論から実践まで一貫して身につけられた、説明や例えが興味深かった
3. 説明について(1)：わかりやすかった、聞き取りやすく面白かった
4. 授業内容について：スライドが工夫されていた、熱心に説明してくれた、ニュースやトレンド・教員の体験などに基づき柔軟に講義をしてくれた
5. 説明について(2)：説明がわかりやすかった、丁寧に説明してくれた

「この授業の改善してほしい点」



1. 説明内容について：雑談を減らしてほしい
2. 課題方式について：問題形式の出題がほしい、参考文献を自分で調べるべきか明示してほしい
3. 理解できなかった：もっと噛み砕いて説明してほしい
4. 資料について：文字が多い、もっと説明文を書いてほしい
5. 授業進行について：学生証を忘れた場合の対応が悪い、サボっている学生がいる

## 2. アンケート結果を踏まえた検討

### 2.1 学生の授業への満足度などについて

受講者の約70%は自身が授業に熱心に取り組んだと「非常にそう思う」「ややそう思う」と答えており、「かなり満足・とても有益だった」「やや満足・有益だった」との回答が約77%に及ぶことから、本プログラムの授業への受講者による評価は一定以上のレベルにあるものと考えられる。

また、自由記述による回答でも、「理解を深められた」「興味深かった」との記述が見られ、授業が学修に役立っていると考えられる。

### 2.2 授業の進め方について

授業レベルは約80%の受講者が「やや高い・やや難しかった」「ちょうど良い・ちょうどよかった」と回答しており、平易すぎず適切な難易度の授業であったと言えるだろう。また、進行速度についても約78%が「ちょうど良い・適切だった」と回答しており、「やや速い・少し早かった」との約13%の回答と合わせ、適切から少し早く自ら学ぶ必要があると感じられる、適切な進行速度を保っていたと評価できる。

あわせて、教員の説明について、約76%が「非常に分かりやすい・とてもわかりやすかった」「まあまあ分かりやすい・わかりやすかった」と回答しており、難易度・進行速度を適切に保ったうえで、理解しやすい説明を行っていたと考えられる。

自由記述による回答でも、良かった点として「トレンドや教員個人の体験が取り入れられていた」「スライドが工夫されていた」など、教員の授業内容を高く評価する記述が見られた。また、「雑談が多い」と教員の説明の改善を求める意見から、教員がさまざまな説明の手法を凝らしている事がわかる一方、授業進行のどこに結びつくのか、わかりやすく提示する工夫も求められている。

「わかりやすく提示する」という点では、「問題形式の出題がほしい」「参考文献を自分で調べるべきか明示してほしい」といった課題の方式に関する意見もあり、わかりやすくすぐ把握できる部分、受講者が自ら思考を深める部分をバランスよく配置していく余地があると考えられる。

以上